

ブドウ「シャインマスカット」の省力的な果房管理

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹－ブドウ－栽培

2 担当者名

遠藤敦史、芝祥太郎、三田村諭、南春菜、渡邊善仁、佐久間宣昭

3 要旨

東日本大震災の被災地域における農業再生に向け、浜通りの稲作主体の地域で水稻育苗ハウスでのブドウ栽培が注目されている。このため、需要の高い「シャインマスカット」において果房管理技術の省力化を目的に作業時間を調査した。

花穂整形の目標とする花房長を有した支梗の利用、花蕾数を減らす器具「テキライグシ」の利用、穂軸を囲む刃で不要な支梗を連続的に切除する「花穂整形器」の利用により花穂整形や摘粒などの果房管理作業時間が短縮された。

- (1) 「支梗利用」の場合（図2）は長さ4cm程度の花穂の支梗を利用し、その他の支梗を一度に切除することで作業の短縮が図られ、果房管理時間は慣行と比較して50%程度削減できた（図1）。
- (2) 「テキライグシ」で摘蕾を行った場合（図2）は果房管理時間が慣行と比較して40%程度削減できた（図1）。しかし、果粒密度にバラツキを生じ、隙間のある果房となる場合があるので注意する（図3）。
- (3) 「花穂整形器」を利用した場合（図2）は連続的な支梗切除により作業が短縮でき、果房管理時間は慣行と比較して20%程度削減できた（図1）。

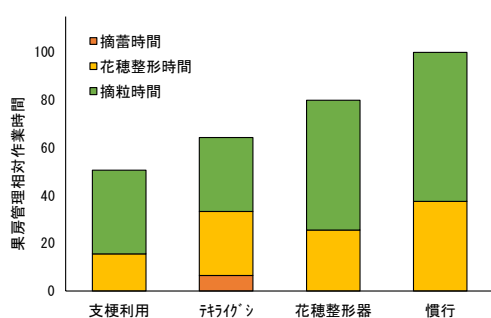


図1 「シャインマスカット」果房管理技術の違いによる果房管理時間比較(2020年)

※「慣行」の作業時間を100とした



図2 「シャインマスカット」における省力的果房管理技術

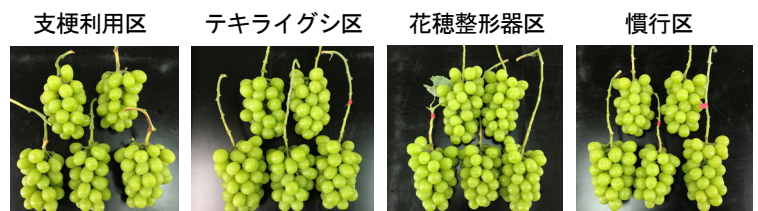


図3 「シャインマスカット」果房管理技術の違いによる収穫果

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成30年度～令和2年度
- (2) 研究課題名 浜通り地域におけるナシとブドウの早期成園化技術導入に関する実証研究〔食料生産地域再生のための先端技術展開事業 (JPJ00418)〕

5 主な参考文献・資料

- (1) 果樹の早期復旧コンソーシアム, 栽培中断園地における果樹の早期復旧に向けた実証研究成果集, 2021.